

中国業界がロシア丸太輸出関税の引き上げをどうみているか

1. ロシア丸太輸出関税率の改定概要

2005年末、ロシア政府は丸太輸出関税の関係法令を発表し、丸太の輸出関税率を2006年1月1日から6.5%（最低課税額4EUR/m³）、2007年7月1日から10%（最低課税額6EUR/m³）に引き上げ、二次加工品の輸出関税及び木材加工機械の輸入関税を零関税にするといった丸太輸出規制と木材加工への投資奨励措置をとった。

さらに、ロシア政府は今年2月7日に、このように一旦決めた丸太輸出関税率を改定し、今年の7月から20%（最低課税額10EUR/m³）、2008年4月から25%（最低課税額15EUR/m³）、2009年1月から80%（最低課税額50EUR/m³）に引き上げると発表した。ロシアのこのような丸太輸出関税の大幅な引き上げは、その目的がロシア国内における木材資源の製品化の推進、外国資本と加工技術導入による技術の向上、丸太の安売りや乱伐への歯止め、国内税収への寄与、国内での違法な森林伐採が横行しているとの国際的な批判への対応にあるとの見方が多いが、実行すれば、ロシア丸太の輸入に依存している中国、フィンランド、日本の市場が打撃を受けることになり、中国を始めとする多くの国々に大きな波紋を呼んでいる。

施行予定のロシア丸太輸出の関税率

実行期間	針葉樹丸太	広葉樹丸太 (ポプラを除き)	ポプラ丸太	半製品
2006年1月1日～ (現行) (最低課税額)	6.5% (4EUR/m ³)			
2007年7月1日～ (最低課税額)	20% (10EUR/m ³)	20% (24EUR/m ³)	10% (5EUR/m ³)	10% (20EUR/m ³)

2008年4月～ (最低課税額)	25% (15EUR / m ³)	20% (24EUR / m ³)	10% (5EUR / m ³)	15% (25EUR / m ³)
2009年1月～ (最低課税額)	80% (50EUR / m ³)	40% (50EUR / m ³)	80% (50EUR / m ³)	50% (80EUR / m ³)

2. 中国市場にもたらすロシア丸太輸出の高関税率の影響

中国木材専門家は、ロシアが中国最大の丸太輸入相手国であるだけに、ロシア丸太の輸出関税率の大幅な引き上げが次のような影響を与えると指摘する。

輸入丸太のコストアップ

図1に示すように、針葉樹丸太の平均通関価格が買い付け時期と関係なく850元/m³であることを前提に、輸出税率の引き上げによるコストアップを試算したところ、m³あたりの輸出関税が2007年6月30日までは55元であるが、2007年7月1日以降は115元増の170元、2008年4月以降は157元増の212元、2009年1月以降は625元増の680元となる。中国木材専門家は、このようなコストアップ分をロシア側の売り手並びに中国側の買い手が共同で負担しても、中国側の買い手にとって丸太の輸入コストは少なくとも7%以上アップになるとみている。

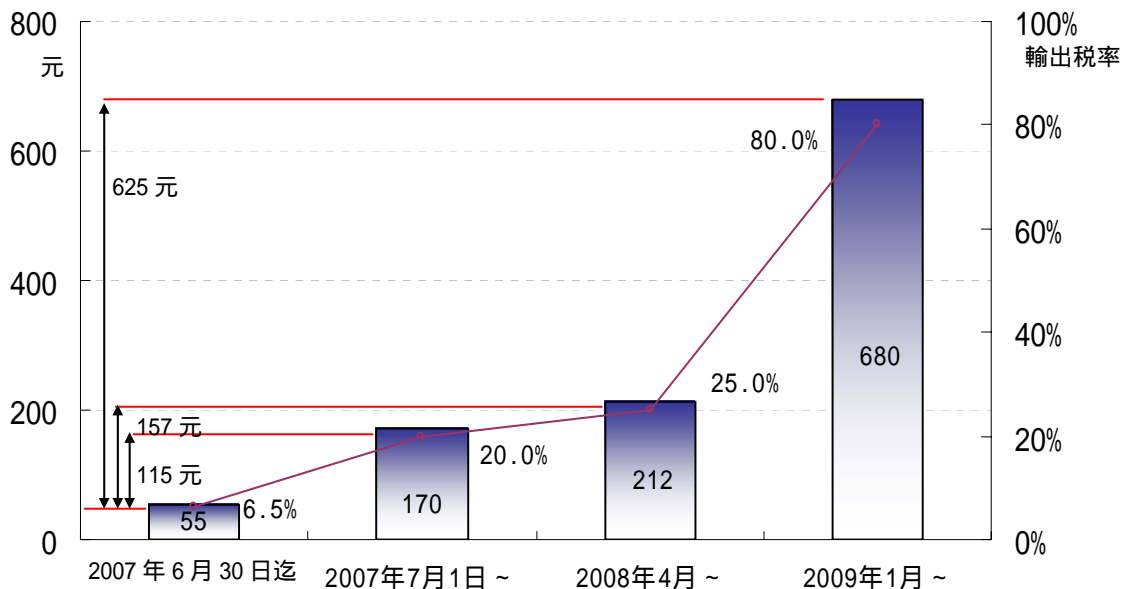


図1 ロシア針葉樹丸太輸出税率の引き上げによるコストアップの試算

試算条件：針葉樹丸太の平均通関価格が買い付け時期に関係なく850元/m³であること

ロシア丸太輸入の伸びの鈍化

図2に示すように、2006年のロシア産丸太の輸入量が前年の2004万m³から2200万m³へと増加しているものの、前年比は2005年の18.2%から9.8%に減少し、減少幅は8.4ポイントであった。こうしたロシア丸太輸入の伸びの鈍化は2005年の丸太輸出関税率の引き上げによる影響が大きいとみられる。今後、ロシア丸太の輸出関税率の更なる引き上げが中国のロシア丸太輸入の増加にマイナスに働き、ひいてはマイナスでの伸びになる可能性を否定できないという見方もある。

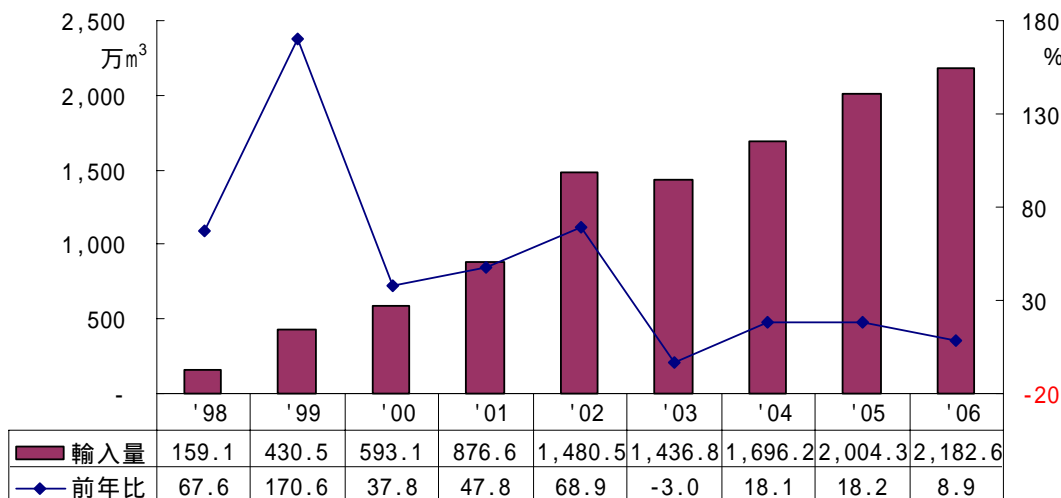


図2 中国のロシア丸太輸入量と伸び率の推移

出所：中国税関統計

原材料競争の過熱

昨年以來、東南アジア材、アフリカ材の供給不足が続いているため、国内のメーカーはロシア産丸太へのシフトを進めてきた（本情報誌の2006年度NO.7を参考）。しかし、ロシア丸太の輸出関税率の大幅な引き上げにより、前述の輸入コストの大幅アップ、輸入量減少が必至であるため、木材加工メーカー、家具メーカーを中心にこれまで進められてきたロシア丸太への原料転換は挫折するであろうとの見方が多い。原材料供給に不安のムードが高まっているなか、国内メーカーは現在、市場からの原材料調達に走っている。今後、輸入材、国産材を問わず、原材料調達の競争が一段と過熱するであろう。

3. 中国企業の対応

中国政府とロシア連邦政府が2000年11月3日に調印した「森林資源の共同

開発の協力に関する協定」の中には、ロシア連邦国境内の森林（火災後の森林を含む）の共同伐採とともに、ロシア連邦の木材伐採と木材加工部門への投資誘致、木材加工、森林更新、森林防火、森林病虫害の防除に関する協力事項が定められている。しかし、中ロ両国政府とも、「小伐採、多加工」を提唱し、中国大手企業による木材加工プロジェクトへの支援強化を進めているにもかかわらず、これまでの林業分野の協力では立木伐採が圧倒的に多い現実となった。これは、双方の業者が丸太の貿易を通して高い利益を得ているという市場原理が働いているためと考えられる。今回の丸太輸出税率の大幅な引き上げの狙いのひとつもこうした丸太貿易を削減し、加工度の高い製品の生産、輸出を促すことにある。

中国商務部の統計によると、2005年までのロシアにおける中国企業の木材加工能力は134万m³に、加工プロジェクトへの投資額は5億USDに達している。しかし、近年ロシアからの製材品輸入量が2ケタで増加しているものの、その伸びは鈍い傾向にある（図3）。中国木材専門家は、丸太貿易から加工品貿易への転換を促すためには、官民一体でロシア国境内での加工工場の建設をさらに進める必要があり、これによってロシア丸太輸出の高関税率の影響を最小限にすることもできると指摘している。

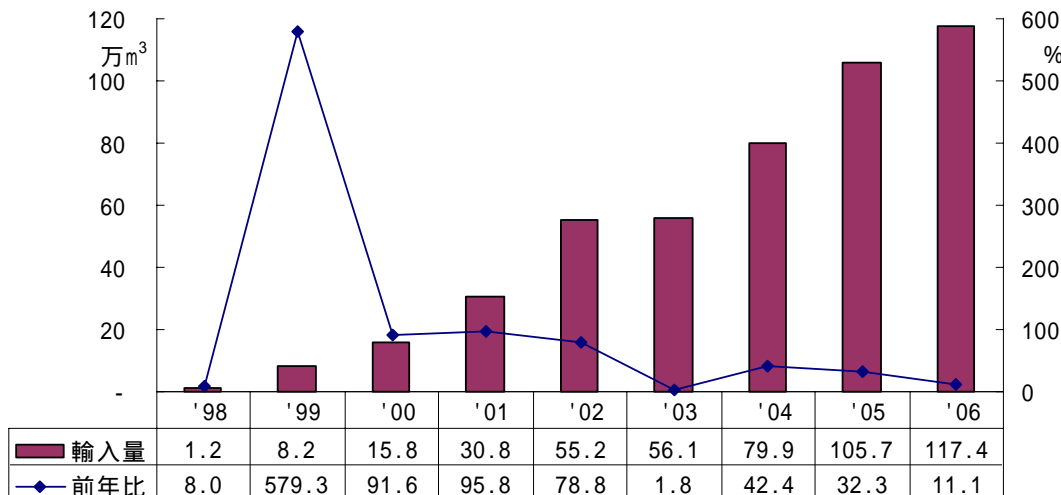


図3 中国のロシア製材品輸入量と伸び率の推移

出所：中国税関統計